

偕楽園を日本一の梅園に プロジェクトいよいよ実現へ！



偕楽園の梅園の現状

偕楽園の梅園は水戸斉昭公のもとで創設された時は二〇〇品種一万本とされ、日本一といわれました。しかし、その後明治六年の常磐神社の創建、今次大戦末の水戸空襲による戦災、大戦中・戦後の管理の不十分さによって荒廃していきました。これを憂いた多くの先人の努力によつて、その後一〇〇品種・三〇〇本といわれるまでに回復しました。

現在も、かなりの費用をかけて維持に努力していますが、年々三〇本近くが枯死し、枯木の補植も、伝統を誇る梅園にふさわしい成本を十分確保するのが困難な状況であるといいます。品種についても、個々の木に品種を記入した木札を着けていますが、十分鑑定・同定できず不明のものが多くあります。

既に完成している田鶴鳴梅林、狸々梅林、窈窕梅林には偕楽園本園にない品種も植えられていますが、すべての品種について鑑定・整理されているとはいません。

従来品種数で日本一とされた静岡市の丸子梅園（三〇〇品種・八〇〇本）

に加え、平成五年に兵庫県たつの市に「世界の梅公園」が開園し、梅のふるさと中国などの梅を含め約三五〇品種を集め、「日本一」を目指しはじめています。

再び日本一の梅園に

（元吉田町）の昭和四十六年のカタログでは一九五種類が記載されています。しかし、花梅苗木の需要は年々減少して同園も販売を中止するに至り、本楽園に苗木を納めてきた茂垣勝男氏の元にある母樹も風前の灯となっています。このような状況を放置できないということで、本会は「偕楽園公園を再び日本一の梅園に！」プロジェクトを構想しました。このプロジェクトは、会員や一般の賛同者から寄付を募つて、

さきかけて、県が偕楽橋の近くに予定している「献木の森」の一角に多品種の梅を育成し、定植するという計画がまとまりつつあります。平成十九年度に苗園を造ることになり、場所も県と共同で選定できました。
計画では、初年度に水戸の花梅を継承する埼玉県の業者に今年秋に苗木を発注→平成十九年春実生苗に接木→平成二十年春に苗木引渡し・苗園に植樹→平成二十年後定植という数年がかりの工程になります。次年度以降も茂垣氏の

なお、水戸市では三十数年前から植物公園梅見本園に梅を植樹し、既に三十年以上を経た成木があり、これを偕楽園本園などの補植に用いることができれば風格ある梅園の充実もはかれると考えられます。
詳細は、十二月二日に臨時総会を開催し、そこで提案、決定する予定となっています。
臨時総会のご案内は四面に掲載。

平成梅林整備募金計画

一 趣旨

失なわれつつある梅を収集して、偕楽園公園内に平成梅林を整備する資金を募る

一 事業

梅苗木を購入育成し、偕楽園公園内の平成梅林に定植する

一 募金内容・目標

個人1口	梅苗木1本	2,000円
法人1口		10,000円
(梅成木1本50,000円)		
目標	総額300万円	

大名庭園民間交流金沢大会

行事報告

大名庭園民間 交流協議会発足

十月二十六日に開催された金沢交流大会を期に、これまで交流を続けてきた偕楽園公園・小石川後楽園・兼六園・岡山後楽園・栗林公園など旧大名ゆかりの庭園を愛する五つの民間団体は、「大名庭園民間交流会」を結成しました。

今回参加した団体は表の五团体です。関係団体は、平成十年の「日本三名園シンポジウム」を最初に年々交流会を行つきましたが、我が偕楽園に「偕楽園公園を愛する市民の会」が結成されたことで、今回正式に協議会の結成にいたりました。

兼六園	金沢城・兼六園研究会
岡山後楽園	岡山藩郡代津田永忠顕彰会
小石川後楽園	NPO法人小石川後楽園庭園保存会
栗林公園	栗林公園ボランティアガイドクラブ
偕楽園	偕楽園公園を愛する市民の会

決定された規約は、目的として「歴史的な文化資産である大名庭園を誇りとし、それを学び加した各団体の性格が多様なため、さしあたりできることから交流を実行しよう」という合意で作られた規約です。

代表幹事として兼六園研究会の上田輝喜会長が就任し、本会からも和田会長が副代表幹事の一員として選ばれました。また、来年度の交流事業を岡山後楽園で平成十九年十月五・七日に行なうことが決まりました。



設立決議書に署名する和田会長

伝えることを担う各地の市民団体が、自主参加し、自らの行動をより高めるに必要な交流・連携の事業を通じて、庭園を活かしたまちづくりや地域文化の振興に寄与する」ことをうたい、事業としては、事業活動の情報交換・観光案内の受け入れ・実施、持ち回り大会の実施、文集の発行などをあげています。参考

大会記念事業

第一回記念大会は、石川県の「金沢大学」の公開講座を兼ねて開催され、五団体からの参加者を含めて二六〇人が出席する盛大なものでした。先ず東京農業大学教授の進士五十八氏の

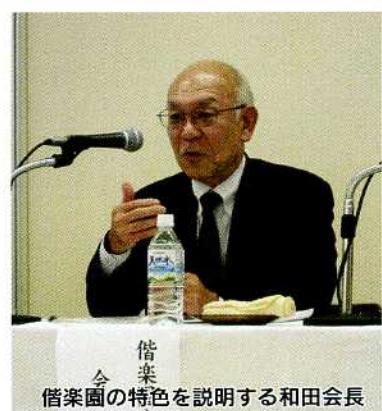
「大名庭園から学ぶもの（美しいまちづくりを希求して）」と「いまちづくりを希望して」という記念講演がありました。氏

は、大名庭園の総合性に学び、庭園における縮景・借景・樹芸・然びの四要素を、拡景・貸景・緑地・百年都市という対称的な方向で「まちづくり」に活かされることなど、ユーモアを交え、五庭園を例にしながら話されました。

次に「大名庭園の価値に向き合おう—愛する人の輪を広げよう—」をテーマとするパネルディスカッションが行われました。五団体の会長さんが、①庭園の特色、②スライドでの庭園の紹介、③創設者の思いを、順番に話されました。庭園の特徴ばかりでなく、会と会長さんの性格まで表れる素晴らしいものでしたが、和田会長は、偕楽園の良さを要領よくしかも鮮明に述べられ、強い印象を与えました。



湊黄門様と参加者一同



偕楽園の特色を説明する和田会長

行事報告

偕楽園公園の魅力を楽しむ

**偕楽園の歴史と
自然を探る**



コース案説明する千葉さん

梅の名所として全国に知れ渡つてある偕楽園にどんな歴史が秘められているのか、齊昭公がどのように考え造ったのか、そんなことについて馳せながら直に触れてみる散策に参加しました。

梅桜橋を渡り園に一歩足を踏み入れると齊昭公が自ら手掛けようとした庭園の雰囲気に溶け込まれて行く感じです。幾重にも年輪を経た熊野杉、京都から移植された孟宗の竹、移植されたり囲むヤブ椿と桜、まさに陰陽の世界を醸しだす霧

梅林を抜け仙奕台に立つと眼圏気に公の思いが伝わってくる気がしました。

梅林を抜けて千波湖、それを取りまき連なる千波の森、自然の地形を生かしたスケールの大きさ、岡山の後楽園や金沢の兼六園などは趣が違った素晴らしい庭園であります。吐玉泉に至り、樹齢七五〇年の老杉に圧倒されながら深い歴史に包まれた偕楽園を次の世代に引き継いでいきたいものだと思いながら散策を終わりました。

(千葉初雄記)

自然を探る



見晴らし広場にて

**秋の旬を楽しむ
偕楽園ウォーク**



表門前 手前で二季桜がチラホラ

見晴広場では、宮城野萩、白萩・丸葉萩などが楽しめ、咲き募る萩の根元に中村彦蔵さん飼育のズムシの放虫が行わ

九月十七日午前九時～十二時
歴史館→表門→吐玉泉→見晴広場（スズムシ放虫）→偕楽橋→黄門さん銅像広場→螢橋→四季の原→梅郷橋→窈窕橋→偕楽園公園センター→梅桜橋→歴史館蓮池→歴史館
参加者 五〇名

前回の企画で十分活躍できなかつた歴史アドバイザーの方々の丁寧な説明があり、園内の散策ができました。

幸いに台風襲来が避けられ、歩きながら秋の旬を楽しむ最適のくもり天気のもと出発しました。

黄門さん
廣場を出発してからの後半はウォーキングが主体になりました。

秋の空気といろいろな遊びに興じる人々の姿に、偕楽園公園の秘密められた豊かさを実感させられる一日でした。
(仲田光子・大槻功記)

眼にする参加者の感激を誘いました。



最後はストレッチ!



千波湖八景図の前



スズムシ放虫



中村さん

これから行事

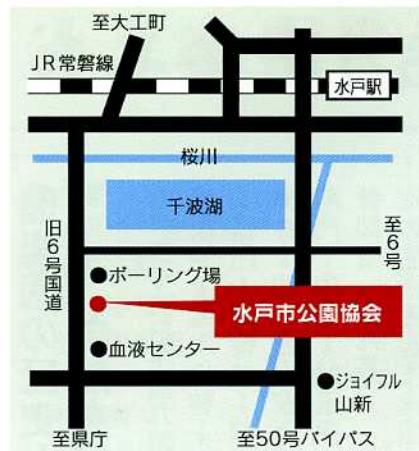
本会の行事は「水戸市報」や新聞各紙などの行事案内に掲載されるよう努力していますが、会員への個別のご案内は致しません。お問い合わせは葉書あるいはファックスで連絡担当者までご連絡ください。

臨時総会のご案内

一面既報のように平成梅林整備推進事業が急進展しています。そこで臨時総会を開催し、会としての取り組みを決定したいと思います。

・時間 十二月二日(土)
十三時三十分～

・場所 水戸市公園協会
(赤十字血液センター脇)
・議題 平成梅林整備推進事業



偕楽園公園の現状と未来を語る

偕楽園公園は大規模公園として整備が進められています。この公園は、私たちが、水戸の未来を生きる人々のために、豊かな環境・歴史的遺産として送り届けなければならぬ貴重な財産です。その計画と現状について県や市の担当の方々から話をうかがい、意見を交わします。

・十二月二日(土)

・時間 十四時～十六時

・場所 水戸市公園協会

・講師

茨城県公園街路課課長 鯉淵 真佐雄氏

水戸市公園緑地課課長 設楽 吉男氏

・連絡担当・安斎 みつ

〒310-0841 水戸市酒門町一八七三一六

Fax ○一九一〇四七一八三九

平成十九度総会(予告)

・時間 平成十九年四月七日(土)
十三時三十分(十三時受付開始)

・会場 茨城県歴史館(予定)

・連絡担当・当会事務所

総会記念講演(予定)

・時間 十四時三十分～一六時

・演題 「千波湖と偕楽園」

・講師 茨城大学教授 大槻 功氏

千波湖は、水戸が徳川家の城下

町として拡張される時に湖として姿を整え、その後水戸の変遷とともに幾多の変貌を遂げてきた「都市の中の湖」です。その過程で、千波湖は偕楽園設立のころの三分の一に小さくなってしましましたが、偕楽園の一部としての役割を今も立派に果たしています。

会員の夢

好文亭ライトアップ

前号で夢として語った好文亭通年ライトアップは、これまでの期間限定のライトアップを延長するかたちで、水戸市観光協会の協力で来年度実現を目指した検討が進んでいます。

経費の捻出、環境への影響の検討などいくつかの問題が残っていますが、水戸市のシンボルのひとつとして存在感が増すものと思ひ、ぜひ実現したいものです。

ホームページが欲しい

会のインターネットのホームページが欲しいという声があります。行事の案内や写真などを掲載したいのです。

偕楽園についてのホームページはいくつかあります。偕楽園に親しんでいる会員にとってはやや物足りません。ホームページを作成したたら、今何が句か、どんな

いいです。

編集後記
ようやく、第二号を発行することができます。記事が少ないのではないかと恐れました。記事が少ないのではないかと恐れていきましたが、平成梅林整備計画が急進展し、掲載したい写真を削るなど紙面の狭さを感じるほどでした。
会員が予想以上に集まつたので、カラーで発行できました。次号は総会当日に発行・配布の予定です。欠席の方には郵送します。

入会のご案内

- ◆本会の行事に参加できます。会誌をうけとれます。
 - ◆随時入会を受け付けます。申し込みは事務所あるいは知り合いの役員まで。
 - ◆会費は年1千円
- 事務所：水戸市末広町2-2-10
祐月本店内 〒310-0053
tel:029-222-1117
fax:029-222-1116